

テーマ	調査対象館 (赤字は訪問調査)	調査概要
ナレッジベース	京都府立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ○ NPOや自己学習グループ、大学のゼミなど、他の機関や団体との連携による交流を推進し、多くの人が集い、未来志向で議論し発表する場を目指して整備。
ウィキペディアタウン	県立長野図書館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰でも自由に編集参加できるインターネット百科事典「ウィキペディア」を活用して、「地域」を入口に、何かを知り、調べ、編集し、発信するイベント。 ○ まち歩きをして再発見したヒト・モノ・コトを、参加した人々とコミュニケーションしながら図書館で調べ、事項記事として執筆、編集することで、知的な価値の創造と共有を実体験できる。
クリエイティブ commons オープンデータ	大阪市立図書館	<p>図書館ホームページ上で、次のデータをCC BY 4.0国際で提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル画像 フランス百科全書<図版集> ○ 19世紀 薬用植物の世界 ○ 大阪府立中央・中之島図書館の要覧 ○ 調べ方ガイド ○ こども向け調査ガイド ○ 先生のための図書館活用ガイド ○ 図書館調査ガイド
	京都府立京都学・歴彩館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「京の記憶アーカイブ」は館所蔵の図書・雑誌、古文書、行政文書、写真資料、美術工芸資料、歴史民俗資料等の目録を対象とし、重要なものから順番にデジタル化し公開。 ○ 「東寺百合文書WEB」は館所蔵の国宝「東寺百合文書」をデジタル化し公開。 ○ どちらも、著作権をクリアしているものについてはCC BY 2.1 JPに準拠して公開・提供している。
一元的プラットフォーム	国立歴史民俗博物館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合資料学情報基盤システム「khirin(キリン)」は歴博及び連携機関の資料データを搭載し、あるデータベースのデータの一つをキーワードに、他のデータベースへと芽づる式に繋がっていくことが可能になっており、歴史学、民俗学、地域研究の各資料に「越境」しながら触れることができる。地域に関する資料を一つのデータベースでさまざまな角度から見られることで、地域貢献にも繋がっていくと考えられる。
経済、産業、文化、 教育への貢献	鳥取県立図書館	<p>ビジネス支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村立図書館では揃えられない高額な専門書・統計資料を収集するなどの情報提供機能の強化を基盤に、専門機関との人的ネットワークを構築して、具体的に活用できる人につなぐ <p>学校支援</p> <p>【高校・特別支援学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村図書館と同レベルの相互貸借やレファレンス協力、協力貸出資料の充実 <p>【小中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校支援センター」を設置し、市町村教育委員会を通して学校図書館活性化を支援 ○ 学校司書、司書教諭に留まらない、教員全体への研修支援
	神奈川県立川崎図書館	<ul style="list-style-type: none"> ○ ものづくり支援に特化した図書館として、海外電子ジャーナルや技術誌、業界誌などの専門資料を重点的に収集・提供 ○ 全国屈指の社史コレクション ○ 専門家への相談コーナーや議論・交流の場を館内に備え、資料だけでなく、人や情報を利用者をつなぐ窓口となっている。
公文書館先行事例	神奈川県立公文書館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公文書を基本的に全量引き継ぎし、館内で選別している。 ○ 情報公開制度とセットで館のあり方を位置づけ、公文書という情報資源を県民にいち早く提供するための制度づくりが行われている。